

災害時の地域医療における増子記念病院の役割

医療法人衆済会 増子記念病院 理事長・院長 両角 國男

日本の自然災害は台風と地震が双璧です。特に秋は台風シーズンです。昭和34年（1959年）の伊勢湾台風は未曾有の被害で5000名を超す死者・行方不明者を数えました。この地域の多くの皆さんの記憶に残っていると思います。地球温暖化の影響か温帯に位置する日本が亜熱帯化し今年も記録的猛暑日が続きました。重症熱中症の多発と熱中症予防対策など連日の報道は記憶に新しいと思います。一方、近年発生する台風は以前より大型化し猛烈な暴風雨を伴い日本列島を毎週末に直撃し、大きな被害が起きました。最近の台風は、カリブ海から米国の南部東海岸【フロリダ方面】などに襲来する最強のハリケーン（ハリケーンは女性名で呼びます）に近づいてきています。



台風や地震災害時にも病院は地域医療を支える大きな役割があります。増子記念病院も定期的に災害訓練を実施し、私たちが果たすべき役割を円滑に行うための努力をしています。しかし、大規模災害に対しては、個々の病院でできることには限界があり、地域の協力のできること、日本各地から訓練されたチームの援助を受けられないとできないことがあります。

日本の医療従事者の多くは、平成7年の神戸淡路大震災、平成23年の東日本大震災を経験し、大災害時の医療施設の役割について多くを学び、対策を考えてきました。当地区では近未来に発生する可能性が高い東南海地震への対策が県を超した広域で進められています。

増子記念病院の目指す良質で安全安心な医療提供は「真のチーム医療」を根幹としています。一方、災害時に地域の医療機関として担う役割は通常の医療とは異なります。さらに、日赤などの救命救急センター（三次救急病院）の担う役割と二次救急病院の増子記念病院の役割は異なります。増子記念病院が災害時にも皆様への医療提供をするためには、落成した新病棟を中心に耐震構造に加え災害に強いシステム作りを進め、災害時にも病院機能を維持できる体制にする必要があります。災害被害のレベルによっては対応できない限界はありますが、より高いレベルに近づきたいと思います。

災害時の基本は、自分自身(ご家族)の安全を確保することが最優先です。病院も同様で、入院患者さん、職員、病院機能の安全を確保し、それから災害時の医療を担うことです。増子記念病院は650名を超す透析患者さんや多くの腎移植後患者さんの診療を担当しています。透析医療は長時間休止できない診療です。地域の透析医療施設の大半は透析診療を主とした小規模民間施設で、大災害時の診療提供はできない可能性があります。透析医療を受けることができない患者さんが発生しないように、透析予定日が変更となっても生命の危険を回避する薬剤提供や生活制限の具体的方法などを皆さんと共有し、最後の砦として機能する病院となるようこれからも務めていきます。

● 睡眠ポリグラフ検査について

睡眠ポリグラフ検査（polysomnography：PSG）とは、睡眠障害の診断に用いられる検査の一つであり、終夜睡眠ポリグラフ検査、終夜睡眠ポリグラフィー検査とも言われています。病院に宿泊し、電極装着を行い睡眠後から翌朝起床時までの夜間睡眠の状態を調べ、睡眠障害について睡眠の状態を測定する検査です。入眠潜時、睡眠の深さと質、睡眠中断を引き起こす症状（睡眠時無呼吸症状、むずむず脚症状、不随意運動（手脚の瞬間的けいれん）など）の有無などを測定することができます。

睡眠時無呼吸症候群とは？

夜間睡眠中に反復して呼吸停止、あるいは呼吸低下の起こるもので、夜間睡眠が慢性的に妨げられることで、朝起床時に爽快感が乏しく、日中強い眠気や全身倦怠感が毎日のように起こり、社会生活が妨げられる病気です。

治療は薬物療法のほか、CPAPという陽圧呼吸器具や、歯の噛み合わせを調節して顎を前に引き出す装置が開発されています。

当院では、睡眠障害・いびき外来を開いています。睡眠障害の診断や睡眠ポリグラフ検査を希望される方は、当院外来までご連絡下さい。（予約外来：052-451-1541）

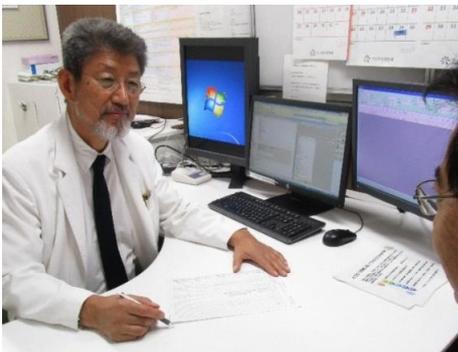


（職員をモデルにした検査時の様子）

● 腎移植科のご紹介

腎移植科では、腎移植を専門とする医師2名と1名の専任移植コーディネーターを中心に、腎臓内科、泌尿器科など他科とも協力し、腎移植に関する専門的かつ総合的な診療を行っています。現在、腎移植患者さん約350名が通院され、腎臓を提供されたドナーの方に対しても生活指導含めた残腎機能管理を行なっています。また、2018年は、休止していた腎移植手術も再開し、本年中に6件、生体腎移植手術の実施を予定しています。

腎移植医療は、血液透析と腹膜透析とならぶ腎代替療法の一つで、他の治療法と比べ、心血管疾患の進行を防ぎ、治療に対する時間的制約そして食事含めた日常生活の質を保つことができる医療です。また、最近の腎移植は、透析を経験せずに腎移植を目指す先行的腎移植が増えています。そして、免疫抑制療法の進歩により、生存率や腎生着率も一段と向上し、血液型が違う血液型不適合移植も血液型適合移植とほぼ同等の治療成績となっています。過去と比較し現在は、多くの方が腎移植医療の恩恵を当たり前に行うことができるようになりました。腎不全治療の選択に悩まれている方、腎移植について詳しく聞きたい方は、遠慮なく当科外来までご相談に来てください。



● 医療福祉相談室ってどんなところ？

「医療費が心配。」「社会保障制度の仕組みを知りたい。」「退院後の生活に不安がある。」
 そういった、患者さんやご家族からのご相談をお受けする窓口が医療福祉相談室です。

医療福祉相談室では、社会福祉士の資格を持つ専門の相談員（医療ソーシャルワーカー）が、ときに医師や看護師等とも連携を取りながら、様々な相談案件に取り組んでいます。

患者さんやご家族が安心して治療に専念できるよう、親身になって問題の解決のお手伝いをいたします。プライバシーは厳守します。また、費用も発生しません。相談を希望される方は、お気軽に医療福祉相談室、または主治医や看護師等スタッフへお声掛け下さい。



こんなことについてご相談ください

- ・医療費・生活費の経済的問題について
- ・社会保障制度の情報と利用について
- ・療養生活に関する心配事
- ・退院後の生活不安について
- ・地域の福祉サービスに関する情報について
- ・医療機関・福祉施設の情報と紹介について

◆受付時間 9時～16時（月～土）※日曜・祝日は休みです。
 ※予約の方を優先とさせていただきます。

● 認知症・せん妄サポートチームが発足しました

認知症への対応は、社会全体で取り組むべき現代の最も大きな課題の一つとなっています。この問題に取り組むため、増子記念病院は、認知症・せん妄サポートチーム（DDST）を発足しました。DDSTは、職員への情報提供や研修機会の提供、業務マニュアルの作成といった様々な活動を行っています。

9月には「病院で役立つ認知症・せん妄の知識－認知症の人を病院で支えるために－」をテーマに、職員向けの勉強講演会を開催しました。講演では、認知症の症状について、症例の紹介や服薬治療について、各職種での取り組み方や、管理者の役割や責任といった、医療従事者として押さえておくべき各項目について説明がされ、多くの職員が受講しました。引き続き、病院が一体となり、認知症の課題に取り組めるよう、このような教育研修を含め、患者さんやそのご家族が安心してケアを受けられる病院作りに努めて参ります。



平成30年9月6日開催 講演会の様子

（講師は国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 副院長 鷲見幸彦先生）